

令和7年度研究の方向性について

1 研究主題

学ぶ楽しさに気づく子の育成
—考えをもち、かかわり合う授業づくりを通して—

2 主題設定の理由

昨年度、本校では、「自分の考えをもつこと」と「かかわり合うこと」を通して、学ぶ楽しさを味わわせることに重点を置いて取り組んだ。課題とじっくり向き合い自分の考えをもつことや、友達と考えを交流することで、学ぶ楽しさに気づく児童が増えたことは、大きな成果である。

今年度も昨年度の流れを踏襲し、「学ぶ楽しさに気づく子の育成～考えをもち、かかわり合う授業づくりを通して～」を研究テーマに設定し、研究を行う。言語を適切に使いながら友達とかかわり合うことで、学びを深め、学ぶ楽しさに気づかせたいと考えたからだ。よりよくかかわり合うためには、学び合う学習集団の質を高めることも求められる。そこで、今年度も子どもたちの「学びの基盤」を大切にし、学級づくりや学習規律など、学びの基盤となるものを職員で話し合い、共通理解をしながら進める。学びの基盤が学習に反映され、生かされ、学習の中で、「自分の考えを伝え、友だちの考えを聞く」、また「友だちの考えにつなげて自分の考えを伝える」という「学び合い」の雰囲気を醸成することで、ともに学ぶ楽しさを味わわせていきたい。

3 研究の重点

- 友だちの良さや頑張りを認め合う集団づくり
- かかわり合いを大切にした授業づくりの工夫
- 「声をつくる」活動の工夫と充実
- 学力の確実な定着